

氏名 石川 輝来 年齢 8 歳 職業・学校名 石川小学校

2011年3月11日東日本大しん災がおき  
 る前、ぼくは大きくま町にすんでいました。し  
 んさいがおきたのは、ぼくが石川町に来て半  
 年がすぎたころでした。午後2時46分ぼくは  
 その時おばあちゃんといっしょにようち園に  
 いるおねえちゃんをまかせに行って、家につ  
 いた時でした。先に家の中に入り、おねえち  
 ゃんにおばあちゃんは大きな声で、  
 「はやく外に出なさい。」と、さけびました。  
 しびらくすると、ママが帰ってきて大きくま町  
 にすんでいる友だちのお母さんに電話をかり  
 ていました。みんな近くのかんかんにおど  
 りましたけど、中には人がいっぴいで、小さい  
 子どももあつれている所がさいと、ママは家に  
 来るようにとむかえに行きました。水も電気  
 も使えない所から来た友だちは、あつたおい  
 ごはんを食べれることにしあわせそうでした。  
 ぼくたちが大人になった時ぼくたちがすんで  
 いた町はどうなっているのか、遊んでいた公  
 園や森にまたみんなまで行けたらいいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名矢内 糸吉菜

年齢 8歳

職業

学校名 石川小学校

ようちえんから帰。ておやつを食べるじゅ  
 んびをしていた時。家がゆれて大きなじしん  
 がありました。柱は、ばあちゃんとしがみつ  
 きました。外を、見たら屋根からさかおらが  
 落ちてきてと、てもこわかったです。お父さ  
 んたちの洋服が、ほしてあってほ  
 「お父さんたちのせんだくもの取、てきて。  
 って言。て、ないていたうて、後で、じいち  
 ちゃんとはあちゃんから教えられました。ゆれ  
 るのが止ま。てすぐテレビをつけたと、家と  
 が車か、海に流れて行くのが、うつ。ていて  
 ばあちゃんに  
 「結果は見てはダメだ。」  
 って大きな声で言おれたのを今もおぼえてお  
 ます。じしんの時つなみで、死んだ人、家を  
 流された人、たくさんいて、  
 「かわいそうだなあ。どうしよう。」  
 と思いました。私の家のかべのちびはまだそ  
 のままになっているけど、青色のジーンズをか  
 ぶせてあ。た所もなくな。って来ました。

東日本大震災の日

ぼくは、保育園の年少組でした。

姉は、年長組でした。

東日本大震災の日は、ぼくは、ま昼寝の時間でした。

先生に連れてされました。

みんな、早くおかえが来たけど、ぼくは、おかえになかなか来てもかえませんでした。

姉と二人でまっていたいました。

お母さんが来て、ぼくとしました。

ぼくと姉は一番大きい子でした。

二度とおんない大きいじしんはこまいでくおさい。

じしんはもういけです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 木暮 幸太 年齢 5 歳 職業 ・ 学校名 石川小学校

2011年3月11日東日本大震災がおき  
 ました。多くのじしんやつなみが、人々をお  
 そいました。市や町がこおされて、何もなくな  
 ってしまいました。この話をお父さんから  
 聞いたとき、ぼくは、とてもかわいそうだな  
 と思います。この東日本大震災がなければ  
 今よりも、もっといいくらいしかでよかったと思  
 います。だから東日本大震災がなせおきたか  
 りたいです。だけどそのときに多くの人か助  
 けに来てくれて今ではもとどおりです。もし  
 その人たちがいなか、たらも、と多くの人か  
 なくなっていたと思います。だからも、とち  
 きやうを守っていきたいと思います。そのた  
 めには助けをう心をもちたいとだめです。人  
 間の命はたったひとつしかありません。命を  
 自分で守らなければいけないから自分を大切に  
 にしてまわりの人々もたいていにしていきたく  
 いと思えます。だから、せつたい大切にす  
 る心をもちていきます。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 猪狩 咲也香 年齢 10歳 職業・学校名 石川小学校

「あの東日本大震災のことは、き。とたく  
 さんの方が忘れないだろう。」と私は思いまし  
 た。私はあのころは小さかったからよくは覚  
 えていないけどガラスがたくさんわれて、残  
 っていた園児の泣く声が聞こえました。幸い  
 だれもけが人はひませんでした。  
 私の友達が郡山に住んでいたのですが、放  
 射線を測ったら少しあぶなか。たので東京へ  
 引。こしてしま。たのです。だから私は、東  
 北の放射線が高くならないようになればいい  
 と思います。あの時から約5年。今もゆくえ  
 不明の人がいます。一こくも早くあの人達が  
 見つか。り、家族に会えればいいと思います。  
 今後は、少しずつ町がきれいにな。ていき  
 たくさんの方が東北に来て、そして笑顔で帰  
 ってもらえるような町にしたいので、たくさ  
 んの人に協力してもらえるように努力したい  
 と思います。  
 また東日本大震災のようなこわい思いをす  
 ることがなくなればいいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 小林 穂花 年齢 10 歳 職業・学校名 石川小学校

東日本大震災があった時、私はまだらまだら  
 だったので地震が起こした原因はこのことはよ  
 く分からなかったが、10才の今、父や母に当  
 時のことを詳しく聞いた。その話の中に被災  
 したペットが被災地に置き去りにされている  
 車も聞いた。エサがなくなったり、家族を  
 探してさまよっていると聞いてとても切なく  
 悲しくなった。私も、ぬこを飼っているの  
 でそのぬこを置いていくと考えただけでぬこが  
 苦しくなった。たかしかし、ボランティアの  
 方達がその動物達をほごしたり、エサを与え  
 てくれていると聞きうれしく思えたが、ボラ  
 ンティアの数もかきつられているので、救える  
 命も少ない。この先、たくさん命を救うた  
 めにも、ボランティアの方々が活動しやすい  
 よう、ボランティアの方々を支える活動もし  
 なければいけないと思う。人間の都合でつづ  
 い思いをしている動物達を、一匹でも飼い主  
 の元へ返してあげたい。私も大人になったら  
 、その活動で協力をしたいと思う。

氏名 双里 梓咲 年齢 10歳 職業・学校名 石川小学校

私が東日本大震災を経験したのは、保育所の年中クラスの時でした。いつもとはちがうゆれを感じ、「えっ。このゆれは何だろう」と思。たことを私は忘れてはいません。

家に帰。てきて、テレビをつけると流れてくるのは、津波が住宅に広がっていること。全部の番号をおしても津波ばかり。私の好きなテレビを見ても津波。私はこわくな。てぶるえが止まりませんでした。この日の夜は、テレビで見たおそろしさでねむれませんでした。

次の日、原子力発電所がはく発。そのことを知。てからは、二週間外には出れませんでした。放しや性物しつ、マイクロシーベルトをこの日知りました。

「かんは、ペ福島」という文字を私は今だに心の中にしま。ています。今後もこの言葉を忘れず、未来の子どもに教えていきたいと思。います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 富山萌唯 年齢 10歳 職業・学校名 石川小学校

今	世	の	中	で	は	東	日	本	大	震	災	へ	の	復	こ	う			
か	お	こ	な	わ	れ	て	い	ま	す	。	私	は	そ	の	こ	と	に	つ	
い	て	考	え	た	い	と	思	い	ま	す									
一	番	す	ぐ	く	感	じ	た	こ	と	は	と	い	う	と	東	日	本	大	
震	災	で	ま	た	自	分	の	い	場	所	が	分	か	ら	な	い	人	の	
大	震	災	に	よ	っ	て	病	気	に	か	か	っ	て	し	ま	っ	て		
こ	ま	っ	て	い	る	人	は	ま	た	い	る	の	か	と	い	う	こ	と	で
す	。	な	せ	な	ら	、	震	災	に	よ	っ	て	ま	ず	し	い	生	活	
を	し	て	い	る	人	が	い	る	と	い	う	こ	と	を	小	さ	い	こ	ろ
は	、	知	ら	ず	に	生	活	し	て	い	た	私	で	す	が	学	校	に	入
り	や	ん	強	を	し	て	大	震	災	の	こ	と	を	知	り	、	そ	し	て
こ	の	よ	う	に	ふ	か	く	考	え	た	か	ら	で	す					
私	は	、	そ	う	い	う	ふ	う	に	、	こ	ま	っ	て	い	る	人	の	
自	分	の	い	場	所	が	分	か	ら	な	い	人	の	た	め	に	、	何	か
を	す	る	、	つ	ま	り	復	こ	う	を	お	こ	な	う	と	い	う	こ	と
か	あ	て	き	た	と	思	い	ま	す	。	私	は	ま	た	小	さ	い	子	ど
も	で	ず	が	、	そ	う	い	、	た	、	か	ん	さ	よ	う	で	こ	ま	っ
て	い	る	人	た	ち	の	役	に	あ	て	る	よ	う	、	し	ょ	う	ら	い
そ	う	い	っ	た	人	た	ち	の	た	め	に	物	や	お	金	を	使	っ	て
あ	げ	た	り	す	る	こ	と	が	で	き	る	人	に	な	り	た	い	で	す

(20文字×20行)



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 迎好夏 年齢 11歳 職業・学校名 石川小学校

東日本大震災がおり、平成二十三年、三月十一日。当時、私は幼稚園生でした。みんなと下校して、た時、急に地震がおりました。家に帰って私はパニック状態になり、泣き止みませんでした。あの時の出来事は今でも忘れる事ができません。

五年後の今でも東日本大震災の原発事故で遺体がまだ見つからず、たけり避難している人、仮設住宅に住んでいる人がたくさんいます。復興で津波や放射線から身を守るためのものをい、たけりなどの対策が必だ、思っています。に、から先も被害が増えな、よ、に願っています。

氏名 鈴木美紀 年齢 11歳 職業・学校名 石川小中学校

東日本大震災が起きた時は、私が年長の時  
でした。その時、姉が水ぼうそうだったので  
ようち園を休んで家でおばあちゃん<sup>◇</sup>と兄弟3人  
で家に居ました。その時に、地震が起こりま  
した。あまりにも大きな地震だったので、思  
わぬこたつの中にかくれてしまいました。そ  
の後も何度か大きな地震がきました。私はこ  
わくてこわくず<sup>◇</sup>とかくれていました。その  
後ニュースで、原発がばく発したと知り、家  
族でおばあちゃん<sup>◇</sup>の知り合いの居るさい玉に<sup>◇</sup>  
みんなすることになりました。車で移動する  
と中マンホールが飛び出ていたり、地面が割  
れていて地震があまりにも大きかったことに  
おどろきました。みんな先では、計画停電で  
電気が止められたり、ガソリン・灯油はなら  
ばないと買えずとても不便な生活でした。ま  
た、お父さんは仕事でい、しょにみんなする  
ことが出来ずしばらくの間はなればなれにな  
り、とてもさみしかったです。家族がみんな  
一緒に生活することの幸せを知りました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 菊地 遥香 年齢 11 歳 職業・学校名 石川町立石川小学校

クラクラッ。今までに体験したことのない  
 大きなゆれ。私はとっさに、机の下にかくれ  
 ました。この時私は、小学校1年生でした。  
 学校が終わり、家で宿題をやっているところ  
 でした。い、たんゆれが収まると、祖父と一  
 緒に外に出ました。周りを見ると私たちと同  
 じように、外に出ている人が何人かいました。  
 余震が続くなか、祖父と一緒に家族の帰りを  
 待ちました。家族を待っているあいだに、水  
 が止まっていることや屋根のかわらが落ちた  
 こと、家にひびかはいったことを知りました。  
 次の日から、毎日役場に水をくみに行きま  
 した。震災が起こって、初めて水の大切さを  
 知りました。スーパーが震災後に初めて開店  
 したので、日用品などを買いに行くと、スー  
 パーの天井が落ち、中がむき出しになってい  
 ました。改めてとても強い地震だ、たのだと  
 思いました。

福島県は原発事故もありました。けれど、  
 1日も早く復興して元にもどってほしいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 瀧口 寛也

年齢 12 歳

職業

学校名 石川町立石川小学校

ぼくは、一年生のころあの地震にびっくりし  
 た。そう、東日本大震災だった。最初はおお  
 かなくこわかったけど、すぐに落ち着いてた。  
 学校は、休校になった。体育館にはひな人者  
 も来たという。家の被害はなか。たが、予震  
 が続く予想し、居間でおねることになった。  
 その後、さらに深刻なことが起こった。そう、  
 福島第一原発が事故を起こしたのだ。放射線  
 がとび出し、大変なことになったのだ。た。  
 それから月日が経た。今の状況はどうだ  
 ろう。もう、体育館にひな人者はなくなり、  
 学校も普通に通っている。しかし、まだ終わ  
 っていない場所、やる事が残っている。まず  
 は、いよせん作業。その事でまだ、入っていない  
 地域がある。それに、仮設住宅に住んでいる  
 人もいる。それに、風評被害などが早くなく  
 なってほしい。  
 このようなこと、そして、原発事故が二度  
 ない安全な福島に一日でも早く、もどって  
 ほしい。と願っている。

氏名 角田 菜琉美 年齢 12 歳 職業・学校名 石川小学校

東日本大震災が起きたとき、小学校六年生  
でした。学校から帰ってすぐ、強いゆれを感じ  
ました。お母さんと妹といっしょに、こた  
つの下にもぐって、ゆれがおさまるのを待  
ていたとき、天井のすきまから、ほこりかた  
くさん落ちてきました。初めての体験だっ  
たので、怖くて何もできませんでした。ゆれが  
だいたにおさまってからは、姉が学校から帰  
って来て、おばあちゃんも部屋から来て、みん  
な集まりました。それから3日後に、いとこ  
の家で避難しました。私もまだ幼くて、状況  
をのぞくのに、時間がかかりました。避難  
から帰ってきたとき、石川に残っている人  
から話を聞くと、風評被害があることを知り  
ました。福島第一原発事故の影響で、福島県  
産であるだけで、農作物などが売れなくな  
ったのが、悲しか、たです。大震災で一時はど  
うなるかと思いましたが、県の人達の協力だけ  
ではなく、全国からの支援の多さに感謝し、  
「絶対に復興してやるぞ!」と思いました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 矢吹 桃子

年齢 12 歳

職業・学校名 石川町立石川小学校

震	災	の	あ	っ	た	日	、	当	時	7	年	生	だ	っ	た	私	は	、	
そ	の	日	の	こ	と	を	よ	く	覚	え	て	い	ま	す	。	今	に	も	く
折	れ	落	ち	そ	う	な	建	物	、	ゆ	れ	る	大	地	、	折	れ	そ	う
な	木	…	。	私	は	、	怖	く	て	声	も	あ	げ	る	こ	と	が	で	き
ま	せ	ん	で	し	た	。	ゆ	れ	が	お	さ	ま	り	テ	レ	ビ	を	見	る
と	、	大	き	な	津	波	が	や	、	て	く	る	と	い	う	の	で	す	。
私	の	家	は	山	の	上	に	あ	る	の	で	心	配	は	あ	り	ま	せ	ん
で	し	た	が	、	同	じ	県	で	お	こ	る	こ	と	な	の	で	恐	怖	を
覚	え	ま	し	た	。	そ	の	後	も	た	ひ	た	ひ	来	る	余	震	に	よ
り	、	ね	む	れ	な	い	夜	を	過	ぶ	し	ま	し	た	が	最	も	恐	れ
て	い	た	原	子	力	発	電	所	の	爆	発	が	起	っ	て	し	ま	い	。
そ	れ	に	よ	る	風	評	被	害	も	起	っ	て	し	ま	い	ま	し	た	。
同	じ	県	民	と	し	て	と	て	も	悲	し	い	気	持	ち	に	な	り	ま
し	た	。	で	も	、	私	よ	り	ず	っ	と	苦	し	ん	で	い	る	人	も
い	ま	す	。	家	に	帰	り	た	く	て	も	帰	れ	な	い	。	大	切	な
人	を	な	く	し	た	等	、	私	た	ち	に	は	と	う	す	る	こ	と	も
で	き	な	い	こ	と	が	山	ほ	ど	あ	り	ま	す	。	で	も	小	さ	な
こ	と	か	ら	一	歩	ず	つ	。	復	興	に	近	づ	け	て	い	け	た	ら
い	い	な	と	思	い	ま	す	。											

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 橋本 美雪 年齢 12 歳 職業・学校名 石川町立石川小学校

3月11日に東日本大震災がありました。津波の影響で命を落としたり、家が流されてしまいました。だが、あれから4年、町は少しずつ災害から復興しています。がれきがなくなったり仮設住宅が建てられたりしました。そこで、私はこれからの復興について考えてみました。そして私がすぐに思いついた言葉は、放射線という言葉です。3月11日に第一原子力発電所が爆発しました。そして、放射線も各地に広がりました。放射線はたくさん浴びると体の害になるもとと聞きました。だから、福島野菜や米は、きちんと検査が行われ、安全なものなのに他の県の人達は、まだ信じられないと言って食べてくれない人もいます。だから、私の願いは福島のもものを食べておいしいと言ってもらえることとです。今はまだ、安全かどうか信じてくれない人もいるけれども、いつか福島のもものをおいしいと言って食べてくれたら私はとてもうれしいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 水野 有彩 年齢 12歳 職業 (学校名) 石川小学校

震災から4年。今の日本は東日本大震災から復興しているのだろうか。今も、仮設住宅で生活している人がいる。私は今、普通に生活しているけれど、仮設住宅で避難生活をしている人はどんな気持ちなのだろう。

もし、自分が仮設住宅で暮らしていたら、早く家に帰りたいと思う。住んでいる人たちもきっとそう思っているだろう。

あの日のことは絶対に忘れない。4年前の3月11日、まだ1年生だ。たとき、私達は大地震が起こるなんて全然思っていなかった。授業をしていると、急に教室がゆれて私は何が起きているのか全然分からなかった。みんなが校庭に避難した。私はふるえが止まらなかった。家に帰っても皿が割れてバラバラに飛び散っていた。私は余計に体がふるえ出して、初めて大地震はおそろしいということを感じた。

今も、仮設住宅で生活している人がいる。被害があつた地域が早く復興することを願う。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 板橋南希 年齢 11 歳 職業・学校名 石川小学校

私は、平成23年に東日本大震災を体験しま  
 した。私はそのとき学校で授業をしていま  
 した。私は、少しゆれてきたのに気づきました  
 が、まさかこのような大きな地震になるとは  
 思いませんでした。だんだんゆれがはげしく  
 なり学校の全校生は外へ避難しました。しば  
 らく地震は続きましたが、幸いにもこの学校  
 は無事で、石川町も建物かくずれたり、けが  
 人がでたりということはありませんでした。  
 しかし、安心はできませんでした。地震の後  
 に起きた津波や原発の爆発により、福島には  
 被害が拡大しました。それによって、多くの  
 水かさの撤去作業が行われました。今もなお  
 地域や他県などの人達のボランティア活動に  
 より、復興を目指す様子を見ることがありま  
 す。

私は、被害のあった場所に行き、活動する  
 ことは、簡単なことではありません。しかし  
 身近にできる活動ならできるのび、これから  
 も復興に向け私も協力したいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 山口 望 年齢 12歳 職業・学校名 石川小学校

平成23年3月11日2時46分、とても大きな地震が東日本をゆらしました。その時、私は友達と家の中で遊んでいました。最初はふつうの地震かと思、ていましたが、全く止まらない大地震でした。テレビをつけて、今どうなっているのかを確認しました。東北地方に津波けい報が出されており、私の住んでいる福島県にもけい報が流れていました。住んでいる地域は海から遠くでしたが、ここまで津波が来ないかととても心配してドキドキでした。

福島第一原発もそれいともないばく発しました。今は震災から何年か経、ていますか、原発事故による風評被害は、未だに残、ています。復興は、今まだと中だ、と思います。風評被害をなくし、安全だと確信されていない倉庫物やその場所を、都市部の人達や、震災があ、た場所からはなれている人達に「安心安全」と確信してもらえは復興は進むのではないかと思、います。被害を受けて苦しむ方々の思いを背負い、復興を進めて欲しいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 中井香奈恵

年齢 12 歳

職業

学校名 石川町立石川小学校

2011年、3月11日に東日本大震災が起  
 きました。それから、私の家と2、3軒の家  
 が、い。しにひなんすることになりました。  
 3月16日に家を出て、茨城県に5日間いると  
 知。たとき私、そんな長い時間家をけな  
 れたことがなか。たので、不安になりました。  
 東日本大震災が起きたとき、私はまだ1年  
 生でした。ちょうど、私とお姉ちゃんの2人  
 だけい時間、ゆれはじめ。たとき、と  
 。さのほんだんで、近くにおいてあ。た毛ふ  
 にくるまり、上にものがあまりないげんかん  
 にい。て、2人でゆれがおさまるのをまちま  
 した。その数日後、お母さんとお父さんの会  
 社にい。たとき、事務所にはい。たしゅんか  
 ん強い地震が来て、机の下にかくれました。  
 私は、そのときのことを今でもおぼえていま  
 す。  
 数年後には、また強い地震がくると言われ  
 てますが、そんなことはおそろないと、私は  
 信じています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 滝口 碧空

年齢 12歳

職業・学校名 石川所立石川小学校

3月11日東日本大震災の日、私は、教室で音楽の授業を受けていました。皆が「っせ」に、けんぱんハーモニカを吹きはじめると、がたがたッと大きなゆれが感じました。私たちは、「っせ」に吹くのを止め、先生の指示にしたがいました。緊迫の空気の中、家は帰りて、家の中は、たなの物や食器たなの皿がほとんど落ち、手のつけられないような状況でした。いつ余震がくるかわからなく、油断ひとつもできませんでした。

いまの福島県は、復興が進み、ほとんどの人が、元通りの日常をおくっています。でも、また地震が起きたらどうなるでしょう。(また地震が来たら。)と心配している人もいるかもしれませんが、そのような心配をなくするため、非常時の水や食料の準備、防災林やフェンスの設置などできることがあります。自然災害を無くすことは誰にもできません。でも、自然災害による被害を少なくすることは、誰にでもできるのです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 猪狩 明日香 年齢 12歳 職業・学校名 石川町立石川小学校

東日本大震災が起こったのは、私が1年生  
 のときです。その日、私は友達の家遊びに  
 行っていました。ゆかが、とっぜんガラガラ  
 ゆれると、たなからいろいろな物が落ちてき  
 ました。すごくびくりにして、こわかったの  
 を覚えています。母といっしょに家に帰って  
 みると、家もたなの上のものがおちてバラバ  
 ラでした。でも、家族には、けがはなくて安  
 心しました。

幸い、私の住んでいる石川町は、かわらが  
 落ちるなどの被害だけで済みました。でも、  
 沿岸の方に住んでいる人たちの中には津波で  
 亡くなったり人もいます。また、原発事故など  
 もあり、多くの方が避難したまま、ふるさと  
 にもどることができていません。あのまま町  
 にもどらなかつたら、これから生まれてくる  
 子どもたちは、父母のふるさとがわからない  
 ままです。いつか、避難している人たちがも  
 どり、すてきな町をつくることのできるよう  
 な国をみんなで作りたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 山田 真子 年齢 12歳 職業・学校名 石川小学校

私は、2年生になる年の3月に東日本大震災を体験しました。2011年3月11日。その日、私の学校は、6年生の謝恩会があったので、いつもより早い下校でした。なので私の家で友達と遊んでいました。その時、母のけいたいから音が、「ビービービー」と鳴りました。私たちは着信音かと思いあまり気にしませんでした。でもそれはちがいました。地震が来ると伝える音だ、たのです。音が鳴り終わってから、クラクラと家がゆれ始めました。そしてだんたんゆれは強くなり、みんな急いで家から出ました。その時家族は全員そろそろ、おらず、みんな大丈夫かとても不安でした。それから私たちは、安全な横浜の親せきの家に1週間ほどお世話になりました。今は、家族みんなが石川町に住んでいます。石川町はあまり被害はありませんでした。しかし、日本ではこの震災で多くの被害を受けた人達がいいます。私は、この人達が笑顔で過ごせる日が早く来るといいなと思っています。

## 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 瀬谷 雛 年 11 歳 職業・学校名 小学生・石川小学校

私	が	ま	だ	/	年	生	の	と	き	に	東	日	本	大	震	災	に	あ	
い	ま	し	た	。	不	安	と	ま	よ	う	な	か	た	く	さ	ん	あ	り	ま
し	た	。	テ	レ	ビ	ヤ	新	聞	で	、	死	亡	者	や	行	方	不	明	者
か	た	く	さ	ん	い	て	ひ	っ	く	り	し	ま	し	た	。	家	の	中	で
は	自	分	の	机	の	上	か	ぶ	ち	々	ご	ち	々	に	お	っ	て	い	ま
し	た	。	地	震	か	起	き	た	と	き	に	は	私	は	立	っ	て	い	り
れ	ま	せ	ん	で	し	た	。	こ	た	っ	の	中	へ	も	ぐ	り	、	猫	や
家	族	か	亡	く	な	り	な	い	よ	う	に	、	お	っ	と	い	の	っ	て
い	ま	し	た	。	そ	の	後	私	は	、	1	年	生	か	ら	6	年	生	へ
と	今	の	私	に	成	長	し	ま	し	た	。	ま	だ	ま	だ	行	方	不	明
者	は	、	た	く	さ	ん	い	る	け	れ	ど	も	、	そ	の	人	の	た	の
に	も	、	か	ん	ば	、	て	生	き	て	い	き	た	い	です	。	し	か	
ら	、	ま	だ	大	き	な	地	震	か	き	た	ら	、	お	ん	な	不	安	で
い	、	ほ	い	に	な	る	か	も	し	れ	ま	せ	ん	。	だ	け	ど	、	私
た	ち	は	、	そ	れ	を	乗	り	こ	え	て	や	っ	て	き	た	の	です	。
行	方	不	明	者	の	人	々	を	探	し	た	り	、	は	や	く	復	興	を
進	め	た	り	し	な	か	ら	、	ま	た	も	と	の	、	東	日	本	大	震
災	よ	り	前	の	笑	顔	か	こ	す	て	き	な	日	本	に	し	た	い	で
す	。	そ	の	た	め	に	も	自	分	で	で	き	る	こ	と	は	何	で	も
道	ん	で	や	り	た	い	け	す	。	か	ん	ば	り	あ	す	。			

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大槻 泰生 年齢 1 歳 職業            学校名 須賀川第一小学校

ぼくは、東日本大震災のときはうちんにい  
 ました。ものはたおれちいさか、たぼくは  
 じしんといろことがあかりませんでした。で  
 も東日本大震災がこきたときはいとんどいう  
 のはこちいものゝ分かりました。

ぼくは、おせんがきてかりすこした、お  
 母さんがむかえにきました。それから、お母  
 さんのじかにいって、ニュースで津波やじしん  
 でたくさんの方がしんでしまったことを、は  
 じめにしました。お車クルマで帰るときは  
 かカのいイえエのかカでかカこコわワてたタりしたのがすこ  
 しびっくりしてまいりました。

こんできをつけたいことは、東日本大震災  
 みたいなのがまたきても、自分の身がまも  
 れるよりにきをつけて、生活したいです。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 唐橋 篤 年齢 11 歳 職業 〃 学校名 須賀川第一小学校

東日本大震災 唐橋 篤  
 ぼくが、保育園で、楽しく遊んでいるときで  
 す。あの、東日本大震災がおこりました。  
 みんなは、こおかりながら、遊んでいたとき  
 おきて、外へにげました。外のすなはは、  
 地震で、地面をもう使えない、うたいでした。  
 もう、あたまたま、もりながら外へ、しゃが  
 みました。  
 そして、本たなはたおれて、いまだいもた  
 おれていました。先生がたはもたおれていた  
 ものをたおていました。  
 おそれ、すこしまの、うちをたな人のあ母  
 さんがたがえにきて、いるうちに、ぼくのお  
 母さんがたがえにきました。そのあとに学校  
 に、いるお姉ちゃんのことたがえに、たてま  
 に、泣いていました。学校は、いもいもとこ  
 おれていました。  
 家に帰った、もう家の中は、いろんたな  
 のがたおれていました。家をたまたま、たの  
 ちんせきの家にとまりました。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 渡邊 莉央

年齢 11歳

職業・学校名

須賀川市立第一小学校

私は、東日本大震災の時まだようち園の年  
 長でした。だげとそりころインフルエンザに  
 なってしまい家にはいました。三時ごろお母さ  
 んに、  
 「ねなせい」  
 と言われてねようとした時聞き覚えのないブ  
 ガーが耳に入るとすぐに大きなゆれがおき、  
 地震だと確信しました。すぐに家を出ておば  
 あちゃんの家に行きました。そして卒園式年  
 長のまま四月になり入学式を二小で行いまし  
 ました。でも入学式は各教室でかんたんに行っ  
 たので私は、正式な入学式を知りません。入学  
 式の後には、ようち園の卒園式を行い、不思議  
 で複雑な気持ちだったけど津波で大切な物を  
 なくした人達を思えば私達はめぐまわっている  
 と思いました。その年の二学期から仮設校舎  
 で四年間生活し、平成二十七年の夏、大黒町に  
 新校舎が完成して新しい生活が始まりました。  
 他の被災も一小のように元気になつて平和に  
 なつてほしいです。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 望月 結斗 年齢 11 歳 職業・学校名 須賀川市立第一小学校

ぼくが六歳の時に、大しんさいがおきたし  
 た。その時は、すぐに外にみんな避難しました。  
 そのあと、おかあさんが四か月めだ、また来た  
 だいて、おかえにきました。道路がわかれて、  
 びろびろでした。おいしいちゃんは、家のかわ  
 らや、まじがわれてわからなかつたので、ぼく  
 の家に来て、い、しよにわていきました。妹の  
 おむつやミルクを買うのにすごくたいへんで  
 どの店もぎょう列で、いろいろたところにい  
 いて買いました。そして、おふろは、びん  
 ないのでしんせまにの家のおふろを使わせても  
 ら、こいしました。ぼくは、ぬるときにけつで  
 もにげられるようにとがりにはヘルパットをお  
 いてわていきました。そのときは、不安で、あ  
 まいおねなかつたと思います。  
 ぼくの、復興への想いは、ついでながされた  
 家や人がたか、いたと思います。それで心に  
 きずをお、た人もいふと思いますか、その人  
 たが、幸せだなと思えるようにお愿い復興し  
 てほしいと思、ています。

「東日本大震災の体験談と復興への思い」応募用紙

匿名希望

ぼくは、東日本大震災の時、まだ、ようす  
 園生でした。その時、外で遊んでいました。  
 どっせ強いゆれがはじまってその場に転び  
 ました。それから家の前にあった会社の所に  
 人が集ま、ていたから、た、おかしをも  
 らいました。そして家の所にもど、てアリー  
 ナに行くかと言う話しになりました。それで  
 行こうとしたときに、上うち園生の時の友達  
 がお母さんとい、しよに車に乗、てきてい、  
 しよにアリーナにい、しよに行きました。そ  
 れから一日だけアリーナで過、しました。そ  
 れから、家に帰、た、家具などがあ、て  
 いました。それから、お母さんの実家の人た  
 ちが来て家具のかたづけを手伝、てくれま  
 した。

感想は、あんなにひ害をもた、る地震は、  
 もうおこ、てほしくないです。あの地震で多  
 くの人の命がなくな、てしま、たからです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 太田 紫 悠 奈

年齢 11 歳

職業・学校名 須賀川市立第一小学校

わたしは、一年生になる前の時の話です。  
 わたしは、いろいろ事情があつて、父うちえ  
 んには、行っていませんでした。わたしは、  
 入生初のおそろしい出来事を体験しました。  
 3月10日日本橋をよつとだけ地震が発生しまし  
 た。でも、すぐに終わつたので、おつとも同  
 じふうたすこしていました。でも、その次の  
 日の事でした。わたしは、なにをやることも  
 なかうたので、ノートパソコンでゲームをし  
 ながらおやつを食べていました。わたしがお  
 やつを食べている時に地震がおきました。も  
 のすごく強かったです。直ぐに親がいたので、  
 すぐお風呂のところにいきました。そこです  
 べていた5分お風呂すこしおさまりました。  
 外では、雪がふつていました。わたしは急い  
 でテレビをつけました。どの番組もどれも同  
 じ内容でした。わたしはものすごくこわがっ  
 たです。窓から辺においてある物をほとんど  
 の物がこわれていきました。わたしは、たくな  
 った人のために強く生きたいと思つた。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

須賀川市立

氏名 土反本 牙佳 年齢 11 歳 職業・学校名

第一小学校

今から4年前の3月11日、私が6才の頃のこ  
 とでした。幼稚園年長の帰りのバスの中、急  
 に大きなゆれが起こりました。バスには、園  
 児4人と先生と運転手さんが乗っていました。  
 私は何が起きているかよく分からず、窓から  
 外を見ました。家から急いで出てくる人もい  
 れば、同じように車を止めて、でる人もいま  
 した。「ガシャーン、パリーン。」といういろ  
 々な音がしていました。近くの家では、窓ガラ  
 スが割れたり、かわらが落ちてあちこちから  
 「キーン。」という声がバスの中にもひびきま  
 した。私はとても怖くなりました。バスの中  
 でお父さんやお母さんに会いたくなりました。  
 家へ早く帰りたいくなりました。バスの中で泣  
 いている子もいました。大震災の翌日から毎  
 日が大変でした。電気がつかない、水もでな  
 い、学校へも行けない。今までできていたこ  
 とができなくなりました。あれから4年が経  
 ち、私は小学5年生になりました。新校舎に  
 変わり友達みんなと学ぶことに感謝したい。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 藤島 梨奈 年齢 11 歳 職業・学校名 須一小

わたしは東日本大震災のときはようちえんせ  
 いでした。わたしがいたようちえんは、くつばこ  
 がたおれたり、上のものがおろたりしていまし  
 た。わたしは、すぐおそとへにげたけど、ごんせん  
 がゆれていたり、まどがわれていたりするのを  
 見ました。おかあさんたちは、すぐにきてくれま  
 した。かまだゆれているのもかんじたので、こわ  
 がたです。わたしは、小学校にはいりました。昔の  
 一小は、じじんでまどがわれたり、かべがこわれ  
 たりしていたので、二小さんでお世話になりま  
 した。でも、あんまりじぶんのことがこうじかないので  
 あまりたのしくありませんでした。そして、かせ  
 つこうしができました。かせつこうしは、毎日一  
 小せいかいがないので、ちよとじぶんのことがこうのよ  
 うにおもいました。そしてついでに、しんこうしが  
 できました。わたしがしんこうしではじめてし  
 たことは、バウンダがあるということです。ふつ  
 うにかこうにいらしていた人は、あたりまえとい  
 りますが、はじめてでした。これからは、せいかい  
 からのかれるために、はい、訓練もていきます。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 熊田光希 年齢 11 歳 職業・学校名 須一小

ぼくは、郡山の店で買い物をしている時に、  
 母と伯母と共にあの東日本大震災にあいました。  
 キッズコーナーでビデオを見ていたぼく  
 は、強いゆれにありと。さにはすのふにも  
 ぐりました。たくさんさんの悲鳴と一緒に母に  
 連れられて、店の外にでたら、店のかん板や  
 ライトがゆれていて、こわがたです。祖父  
 の家に帰る時に、道路がかんぼつしていたこ  
 とを覚えています。

今はかんぼつしていた道路やこわがた校舎  
 も直り、復興している所もあるけれど、まだ  
 完全に復興しているとは言えません。

今、津波や原発の被害で避難している人た  
 ちの住んでいたかんきょうが取りもどされ  
 ればいいなと思います。また、国と東京電力  
 には原発のほいろや堤防などの建設に力をそ  
 そいでほしいと思います。そしてこのよくな  
 ことから復興が進んでほしいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 渡部 結希

年齢 11歳

職業・学校名 須賀川市立第一小学校

東日本大震災と復興への想い

2011年3月11日だれも予想しなかった出来事が一瞬にして起きたのだ。

私は3月11日お風呂とあるお店へ母、妹二人と買い物に出かけていた。車に乗りこもうとした次の瞬間、あの「東日本大震災」が起きた。私はその時まだ保育園児だった。2つの決断を下された。一つ目は両手に荷物を持っていたながらも、車から放れるか。もう一つは、荷物を放し車からはなれるか。私はその時、決断を下した。その決断は、荷物を放し車からはなれることだ。私は必死になっちゃった。するとあっさま何事もなかったように一瞬にしてその地震は終わった。

今だに仮設住宅に住んでいる人がいるのは悲しかた。その時私は思った「私にはなにかできるのだろうか」私は考えつづけた。その時私は「笑顔ならみんなの希望が生まれるだろうか」私はその決意をいねにしまい、これから大人になっても「笑顔」を大切にしていこう。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 渡辺 美羽 年齢 11 歳 職業・学校名 須賀川市立第一小学校

東日本大震災

渡辺 美羽

私は、保育園で昼ねをしているときでした。

その時、あの東日本大震災が、おきました。

私は、いっしょにしゃべりました。

先生の話を聞いて行動している時、本たなか  
2個たおれ、びびりしました。

外にやなんし、何回もよしんが続き、私は、  
だんだん、こわくなってきました。

友達とは、帰っていき、私も、お父さんが来

て、車に乗って、家には帰らず、おばあちゃん

の家に、向かっていると、マンホールが、

飛び出していました。道路は、おれな道が

ありました。おばあちゃんの家に着くと、家

が、ところどころこわれていて、ガラスは、

いろんな所に飛びちっていました。私は、自

分の家もこわれているのかなあーと思いまし

た。怖くなって家に帰ると、家やガラスは

こわれてなく、ヒビが入っていました。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 芳賀 恵莉 年齢 11 歳 職業・学校名 須賀川一小

私	が	、	よ	う	ち	園	せ	い	の	さ	ら	東	日	本	大	震	災	が
み	な	を	お	そ	っ	た	の	で	す									
私	が	よ	う	ち	園	が	ら	帰	。	て	き	を	そ	っ	か	れ	て	、
ね	て	い	た	と	き	で	す	。	東	日	本	大	震	災	が	お	き	た
の	で	す	。	ね	て	い	た	私	は	、	東	日	本	大	震	災	に	ま
か	り	て	い	ま	せ	ん	で	し	た	。	東	日	本	大	震	災	の	前
お	母	さ	ん	の	弟	が	、	お	ふ	ろ	に	は	い	ろ	う	か	な	と
思	っ	た	と	き	に	東	日	本	大	震	災	が	お	こ	っ	た	の	で
、	私	を	こ	れ	て	、	車	の	中	に	私	を	か	か	え	て	、	い
き	ま	し	た	。														
そ	の	と	き	は	、	か	を	く	ば	ら	ば	ら	で	し	た	。		
◇																		
弟	と	お	母	さ	ん	は	、	ほ	い	く	園	に	い	ま	し	た	。	
お	ね	え	ち	あ	ん	は	、	学	校	に	い	ま	し	た	。			
私	と	お	母	さ	ん	の	弟	と	お	ば	あ	ち	あ	ん	は	、	お	ば
あ	ち	あ	ん	の	店	に	い	ま	し	た	。							
家	の	1	階	は	、	な	に	も	て	が	い	は	で	ま	せ	ん	で	し
た	け	ど	、	上	は	、	本	が	で	て	い	た	り	し	て	い	ま	し
た	。	お	ば	あ	ち	あ	ん	の	家	は	、	お	四	か	い	、	ほ	い
か	れ	て	い	ま	し	た	。											
よ	う	ち	園	の	卒	業	せ	は	、	や	ち	な	い	で	、	し	ょ	う
じ	ょ	う	を	も	ら	っ	て	帰	り	ま	し	た	。					

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 小山 史哉

年齢 11歳

職業・学校名(須賀川市立第一小学校)

東日本大震災の時の思い

がたがたがた泣きながら考えたのオルガンがや  
れはじめました。ぼくは、「なにがおきたの  
かな?」となんとも思いませんでした。でも  
考えてみると、なんでこんなにおおくなるの  
だろうと思いました。ようすえんは、大きあ  
ぎでした。でも、ぼくはただおおくていつ何  
がおきるか不安で、いまままで感じたことのな  
い変な気持ちになりました。その地震がおこ  
る数分前には、友達と牛乳パックをガムテ  
ープでつないで遊んでいました。その後ぼく  
は、バスにずくと乗ってお母さんや、お父さ  
んがむかえにくるのをまっていました。そし  
て、最後の一人になってしまいました。のこ  
っていろのは、先生とぼくだけでした。この  
時は、まだ小さくもさいでした。なのですこ  
くじょうきょうが分かりませんでした。がん  
護師のお母さんは、帰ることができなから、た  
りです。やっと会えた時、安心して、お母さ  
んはぎゅっとなぐさついたのをおぼえていま



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 田島原優介 年齢 11歳 職業・学校名

川原賀川市立第3小

ぼくは、あの時、まだ、ようちん園生でした。  
 テレビを見ているので、気づくのがおそかった。  
 けど、だんだんと強いゆれがはじまって、テレビ  
 まで地震速報がはじまりました。ためどりのア  
 パートに居た人達は全員下の部屋に集まりま  
 した。みんなおびえていたのを顔がこわばら  
 せていました。親が家を見に行くとき、タンスや  
 本などが、テレビがどかたおれていました。し  
 母の家の場合は、被害がすくなかった。タ  
 ンスやテレビがたおれることはありませんで  
 したが、食器がまがまがにならなっていました。  
 と申分家に行く時、道路が二つにわかれていま  
 した。テレビを見ると原っぱはくはくはつした  
 と報道されていました。その地震があったか  
 りは、学校では、しばらく校庭には、遊具に  
 行けがくかりました。家に帰ってテレビを見  
 ると、震災で被害を受けた家の報道がほとん  
 どのチャンネルでなっていました。いまでも  
 行方不明の人達のそうさくがうづいています。  
 ぼくは、行方不明の人が見つかるほしです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 伊藤 太一

年齢 10 歳

職業 (学校名)

須賀川市立第一小学校

平成27年3月11日、東日本大震災が起きました。そのとき僕は幼稚園生でした。家に行きました。お父さんはその日休みでした。家でお父さんとカードで遊んでいました。とそのときです。東日本大震災がおきました。お父さんは、僕のことをだきかかえて外にでました。そのとき家にいたのは、お父さん、僕、おいしいちゃん、おばあちゃん、ひいちゃん、ひいちゃん、おばあちゃんでした。お母さんは平日なのでしごと、妹は、ようちえんにいました。その後お父さんは、妹をおかたにいき、お母さんは、家にかえってきました。そこから僕たちのくらしは、車の中の生活でした。たまたまおぼしんもぎました。今では、ふつうにくらししているけれどまだそうなっていない場所もあります。復興を助けたいかかばってほくいてす。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 角田華球

年齢 10 歳

職業・学校名 須賀川市立第一小学校

私はこの時6才でした。もうすぐ1年生に  
 なる楽しみがあり、母と休日に学校まで歩く  
 練習を何回かしました。ですが、3月11日の  
 大震災で、学校に行けなくな、たことを知り  
 ました。最初は疑問に思いましたが、後で新  
 聞の写真を見て初めてわかりました。学校は  
 くずれていました。とても悲しかったことを  
 覚えています。地震がおこった時は、保育所  
 にいました。みんなで部屋の中央に集ま、て  
 ゆれがおさまるのを待ちました。泣いている  
 子もいました。家に帰ると食器棚が倒れてい  
 て、お皿がすべておれれていました。  
 震災で今も行方不明の人が何人もいます。  
 今、大震災のおそろしさを忘れている人もい  
 るかもしれませんが、いつ、何がおきるかわ  
 からないのでそのことを忘れずに生活するこ  
 とが必要だと思えます。そして、そのことを  
 自分たちの子供や、年下の子どもたちにおしえて  
 一つでも多くの命を救えればよいと思えます。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 平川 綾香 年齢 10 歳 職業・学校名 須賀川市立第一小学校

東日本大震災がおきたとき、私は保育園の  
 お昼寝の最中でした。横になりしはかいた。  
 たが、ものすごくゆれました。私は、これが  
 地震という事は知りません。みんないっせいに  
 おきあがりしました。みんなは、外に避難し  
 始めました。でも、私はお友達がかねていた  
 ので、起こしました。避難がおくれたけれど  
 も、外に出れました。そのときゾッとしまし  
 た。地面が半分になっ、てたからです。その高  
 さは、15センチメートルぐらいでした。そ  
 れを見たとき、私はごわくなりました。この  
 先どうすればいいんだろうと、思っ、てました。  
 そのとき、お父さんが来ました。家に帰ると  
 家具がこわれたりしてました。今では、東日  
 本大震災かとてもこわかった体験でした。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 加藤 登梨 年齢 10歳 職業・学校名 須賀川市立第一小学校

東日本大震災の体験談と復興への想い																			
平成23年私はようちん園の年長でした。バスで																			
帰ってきました。おばあちゃんとおしゃべり																			
をしていた時です。あの東日本大震災がやっ																			
てきました。外へにげなさいといわれ私は外																			
へとが出しました。おばあちゃんとはたなを																			
おいています。おさま。たあ、お母さんお																			
帰ってきました。お兄ちゃんとお姉ちゃんを																			
おかえに行くとくるからま、こいこいといわれ																			
おばあちゃんと待つていました。家の中は足																			
のふみばのほりほり物外たおんていしました。																			
お父さんは消防心で働いてるのて、数																			
日は、家に帰るとこれませんでした。あの時																			
はすごくこおか、たです。なのてあと同じ想																			
いをもて、家は帰れない人にほきん活動をし																			
たりしたいです。早く家に帰れたらいいな																			
と心から想いました。																			





「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 異崎 隆人 年齢 10歳 職業 〃 学校名 須賀川市立第一小学校

ぼくは、兄と一緒に学校に行けることを望  
 んでいたのですが、兄は中学校の校舎へ  
 行き、ぼくは、第二小学校に行きました。  
 それに、ぼくは、震災の後、地震がゆる  
 った時に、職員室や保健室に行き、こおひん持  
 ちがおさまるまで休んでいました。また、兄  
 童クラブで、父や母のおまがえを待っている  
 時も、地震がありこおひんが祖母が早目にまか  
 えにくることがありました。  
 夏休みが終り、二学期から、兄と一緒に  
 仮設校舎のある場所へ、行くことになりました。  
 た。朝、早くおきて学校に行かないとまにま  
 いません。ぼくもいつのまにか強くなり、少  
 しのことでは、泣かなくなりました。  
 そして、今年の二学期から新しく完成した  
 校舎で勉強をしています。今、兄は中二にな  
 っているが、その兄の分までこの新しい校  
 舎でがんばろうと思っています。また、この  
 新しい校舎を大切に使うつもりです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤友紀 年齢 11 歳 職業 学生 学校名 須賀川市立第三小学校

ぼくは東日本大震災でたいへんな思いをし  
 ました。その日は、とうとう女團の帰、たあとで  
 した。その日はおばあちゃんの家にお母さんと  
 と遊びに行、てました。それで、おばあちゃん  
 人の家の二階でおじいちゃんといとことぼく  
 とおばあちゃんとお母さんみんなで話してまし  
 た。そしたらそのときにお母さんといとこの  
 けータイから、音がしたし、人が人にじしん  
 がおきてビックリしました。そして一回下に  
 降りようとしたら一階の部屋は、上にかが、  
 てあるいと二のしようにとかが落ちてい  
 てたいへんでした。でもぼくとは、うんがよ  
 か、たです。た、ていつもは下にいたおじい  
 ちゃんも二階にいたとぼくとお母さんが  
 自分たちの家にはいなか、たことです。家は、  
 なはまなりけとてしどががう入ものがせんと  
 落ちていたかかいつては、てしどの前で遊てい  
 たのをあんなか、たです。あとこれからはじ  
 しんを一度おしんべんしたの自分でてます  
 とはして、たいさくをしていきまいたです。